

ザックかっついで

6月定例山行

6月20日 神峰山

参加者19名

CL 宮木澄 SL 村島

白川、円山、三浦、中島美、鬼武
上別祖、入江、堂垣内、原田、石倉
佐々木敏、竹野弘、安永、熊谷修
藤本忠、宮木一、[会友]小敦賀

コースタイム

県庁北7:20 出発⇒金剛寺登山口9:40→7合目展望台10:40→

石鎚神社11:40→神峰山山頂12:00～(昼食)～13:00→金剛寺13:50⇒

みかん畑14:10～(みかん狩り)～14:50⇒垂水港15:00⇒県庁



○

数日前より大型台風接近とのニュースで、船をたよりのこの計画は実行できるか本当に心配した。

当日、台風はどこに行ったのか晴天で無風、木陰のない山登りは天然サウナ状態で汗ダクだった。

下見の時は1時間20分ぐらいで登れた山だが、何度も休憩し、水分補給も必要で頂上まで約2時間を要した。

バテ気味の人が数名あり先発隊は頂上から引き返し、石鎚神社で合流し昼食をとる。

下山後、ミカン畑に移動。木に登りミカンもぎを楽しむが、山登りの疲れからか身体が動かず早々に引き上げることにした。鬼武、三浦のお二人の奮闘は特筆に価する。「疲れたが満足した」との声を聞きこの企画をして良かったと思った。ただ船代が高いので大幅赤字がでてしまい申し訳なく思っている。

(記 宮木澄代)

○

心配していた天気も晴れ。梅雨の晴れ間をひた走る山陽道の車窓からの眺める緑も鮮やかに目に映える。船上のデッキからのロケーションと、こちち良い潮風にうたれ思わず、晴れた空♪そよぐ風♪港出船の♪♪♪とロずさむ長閑な一時である。

しかし後にあの超過酷な山登りが待っていようとは誰が想像したであろうか。

延々と続く九十九折りの道。時折振り返れば、もくもくと入道雲の立ち登る瀬戸の島々。こりゃー真夏じゃー。風ない。影ない。あるのは高温と多湿。へろへろになりながらやっと頂上近くの休憩所にたどり着く。

九死に一生をえるとはこの事か。Tさんがコンクリートのベンチに付いた汗の跡を見てまるで原爆の人影のようじゃ。アテントがいるねー。と言ったのは誰じゃ。みんな雨にうたれたように衣服もぐしょぐしょ。まずはそれぞれの飲み物でカンパイ。やっぱし山はいいねーじゃと。喉元過ぎれば何とやら。

(記 藤本忠生)